

# 利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所  
発行人 木樽 一秀  
〒378-0031 沼田市薄根町4412番地  
TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180  
E-mail: tonekyou@pref.gunma.lg.jp

## 道徳科の充実

利根教育事務所長 木樽 一秀

8月25日(土)に昭和村公民館で、第40回少年の主張利根沼田大会が行われました。管内各中学校の代表生徒16名が、身の回りの出来事から考えたことや将来の夢などを分かりやすく発表してくれました。発表内容のすばらしさとともに、発表する態度も緊張感が漂う中で堂々としたすばらしいものでした。

このところ、購読している新聞に若者の投稿が毎日掲載されている「みんなのひろば 私の声」を読むようになりました。最近では「命はたった一つしかない大切なもので、…、命は皆平等だということを忘れず、誰もが幸せに暮らせる世界になってほしい。」「電車や公共交通機関の中には、…、日頃から礼儀やマナーを守ることによって周りの人を不快にしたり、迷惑をかけたりしないように生活したい。」などの投稿や、敬老の日前後では、おじいさんやおばあさんへの感謝、思いやりが感じられる投稿が掲載されていました。多くの若者が、先ほどの少年の主張大会代表生徒のように、よりよい生活や夢の実現を目指して、生活の中で気づき、考え、実行しようとしていることを頼もしく感じています。

さて、今年も学校訪問Aを各市町村教育委員会や学校にご協力をいただき実施できました。大変お世話になりました。道徳科においては、小学校では本格実施、中学校では移行期間最終年度という中、「考え、議論する」授業展開や評価についての研修を深めながら、実践を通して道徳科の充実を図っていただいていることを学校訪問記録や指導主事の報告等から強く感じました。今後ますます人工知能をはじめとした急速な技術革新により社会全体が大きく変革すると言われていています。どのように社会が変革しようとも、社会規範を守り、人を思いやり、夢の実現に向け努力するなど、心の教育の充実により一人一人が幸せな生活を送れるようにしていくことが必要だと思います。

道徳教育は、道徳科の時間を要として、学校の教育活動全体を通して道徳性を養うものです。そのため、今回の「利根沼田の教育」は、特別の教科となった道徳科の時間の一層の充実が図られるよう作成しました。ご活用いただければ幸いです。

### 学校教育係

### 「はじめよう!道徳科」を活用した授業改善

今年度より「特別の教科 道徳」が小学校でスタートしました。各校では「考え、議論する道徳」を意識しながら、着実に授業が実施されています。しかし、登場人物の心情について考えることが中心になってしまう、という声も聞かれます。そこで指導資料「はじめよう!道徳科」(県教委 H30.3)を活用し、「考えさせたいこと」を明確にした授業づくりの例について紹介します。



道徳教育推進教師

今日の授業、登場人物の心情について、ほとんどの子が考えを発表していましたね。ところで、先生が「考えさせたいこと」は、どんなことだったのですか？



授業者

えっ!?

「考えさせたいこと」を明確にした授業づくりが、「考え、議論する道徳」に向けての第一歩です。指導資料を見ながら、一緒にポイントを確認してみましょう。



指導資料2ページの「授業づくりの流れ」を見ると、「考えさせたいこと」を価値観・児童生徒観を受けて、明らかにすることが大切だとわかります。次の教材「お月さまとコロ」（2年）で考えてみましょう。

**ポイント1：価値観(ねらいとする道徳的価値に関わる見方や考え方)を明らかにする**

【小学校年間指導計画 2年】  
 主題名：「すなおな心で」 A 正直、誠実  
 資料名「お月さまとコロ」  
 ねらい：自分に素直になることで晴れ晴れとした気持ちになることに気づき、素直に謝ろうとする態度を養う。  
 (※T小学校の資料をもとに作成)

【あらすじ】  
 ココロのコロが、何度も遊びや歌を歌おうと誘ってくれた友達のギロに意地悪をして、ついには怒らせてしまう。謝ろうかどうか迷うが、なかなか心が決まらない。その様子を見ていたお月様の「顔をつゆの玉で見てごらん。」という言葉聞き、暗く沈んだ悲しそうな自分の顔を見て驚き、コロは涙を流す。お月様の言葉に励まされ、大きな声で歌を歌ってみたコロは、素直な気持ちをもつことで心が晴れ晴れすることに気づく。そしてコロは、ギロに謝ろうと心に決める。

指導資料の左上に価値観の説明がありますが、具体的にはどうすればよいですか？

年計で主題名やねらいを確認し、学習指導要領の解説などを根拠に、本時でねらいとする道徳的価値に関わる先生の見方や考え方を明らかにします。

そうすると、年計は左のとおりです。解説に「いけないことをしてしまったときには素直にあやまることができる」がこの学年の指導の要点とあるので、このような態度を養いたいと思います。

先生自身の価値観が明確になりましたね！次に指導資料の手順に従って、児童生徒観と「考えさせたいこと」を検討してみましょう。

**ポイント2：価値観、児童生徒観を受けて「考えさせたいこと」を明確にする**

児童生徒観まではまとめられたのですが、「考えさせたいこと」が・・・

素直に謝れないのは、なぜですかね？  
 課題の原因から考えてみてはどうですか。

素直に行動することのよさや清々しさを、あまり感じたことがないからかもしれません。

では、「素直に行動することのよさ」を考えさせたらどうでしょう。それに、実態を踏まえ「難しさ」も加えられると、より深く考えられますね。

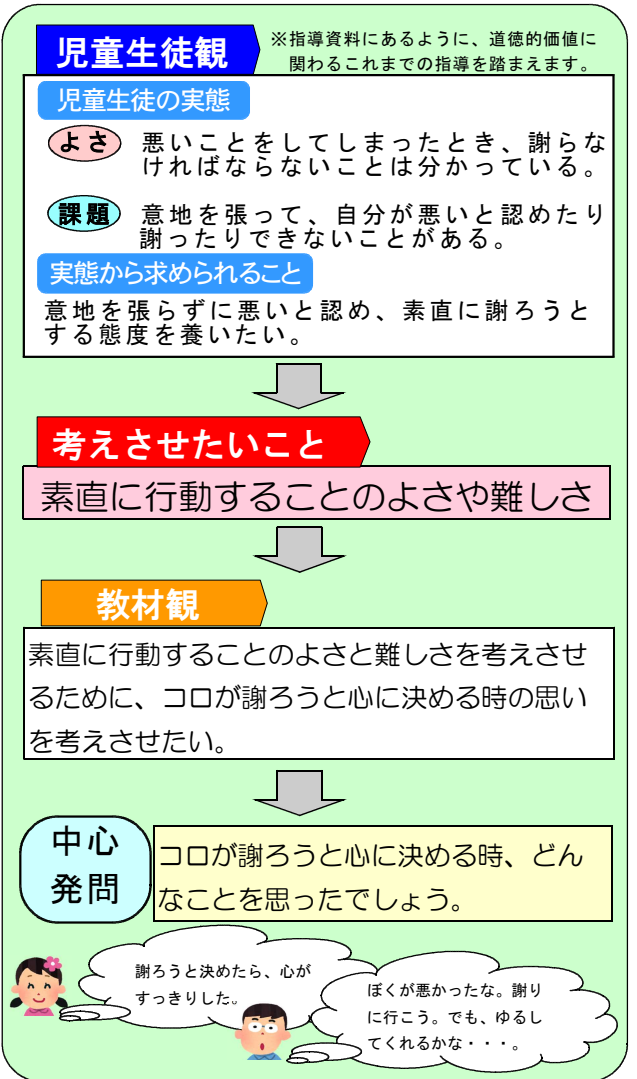
なるほど・・・教材では、コロが謝ろうと心に決める時の思いを考えさせるのがよいでしょうか？

そうですね。そういう経験は子どもたちもしているでしょうから、「よさ」と「難しさ」の両面から考えが引き出せそうですね。

「考えさせたいこと」を基に、子どもたちの考えを引き出すことが大切なのですね。



「考えさせたいこと」を明確にするからこそ、ねらいとする道徳的価値に関する考えを引き出すことができます。自分との関わりで考えさせたり、多面的・多角的に考えさせたりするための工夫なども、これに基づいて行うことが大切ですね。



「はじめよう！道徳科」には、他にも「考え、議論する道徳」への転換を図るためのチェックポイントや工夫例などが示されています。また、「利根沼田の教育」第37号でも「自分との関わりで道徳的価値を捉え、深く考える」ための指導方法の工夫を紹介しています。授業改善に向けて、積極的に御活用ください。